

平成16年度第7回理事会議事概要

日 時 平成16年10月29日（金） 13:30～14:30

場 所 特別会議室

出席者	理事長	田 中	潔
	理事（企画・総務担当）	藤 原	敬
	理事（森林研究担当）	桜 井	尚 武
	理事（林業・木材産業研究担当）	池 田	俊 彌
	監事	今 村	清 光
	監事	井 上	徹 雄
	総務部長	周 藤	眞
	事務局（企画科長）	藤 井	智 之
	事務局（総務課長）	加 藤	秀 春

欠席者 企画調整部長 石 塚 和 裕

1. 開会

2. 議事

（1）監事監査報告について

（井上監事）

<資料1：監事監査報告書により説明>

（藤原理事）

検討事項の4番目に中・長期的な人事管理構想とあるが、どういったイメージのものか。

(井上監事)

毎年人員の削減が求められている中で、重点的にすべての分野を同じように人材を配置するというのは難しいと思う。本支所体制を踏まえてどういった研究の重点化を将来進めていくかという観点で、採用を含めた人事管理の方向性を明確にしておくというイメージである。

(今村監事)

1 番目の前段にも書かれているように研究推進の面で領域によって温度差があり、本支所間においても同じことが言える。今後、新たな人材を得たり、流動化するなどして、総合的な研究成果を挙げられるよう所としてその前提となる大きな方向性を持つことが必要である。

(池田理事)

今までトップダウン的に方向性を示した例は少ないが、例えば多摩森林科学園を環境教育研究のセンターにするに当たって関係者に示したり、資源管理の面でリモートセンシングなどなるべく集中して管理するよう関係の各領域に示したり、いくつかの例はある。また、支所で研究分野を持っているところの領域長の中には、最低限必要な分野に人材を確保できるかどうか、支所で重点研究をやる時に所としてバックアップしてくれるのか、といった人事管理面において不安を感じているところはあるようである。方向性を示すに当たって、どこまで周知すべきか難しいところである。

(今村監事)

方向性のメリハリをつけることは重要である。例えば、選考採用で専門性を持った人材を得ることも大切であるが、1 つの専門性が有効な期間は短い。難しいことではあるが、広く、長期的な視野で将来を見据えるとともに、シングルメジャーだけではなく、ダブルメジャーの有望な人材を得ることも必要である。

(池田理事)

総合化研究のことだが、他から入ってくるプロジェクトも含め課題研究をやりきれない領域は、以前のように「研究部」のクッションが無くなり、企画立案面言えば研究管理官が意見の汲み上げがうまく出来ず、他の領域と差がでる。領域からの積極的なアプローチも必要ではあるが、総合化研究を進めていく中で、この課題に関する吸い上げ方式という形は問題があるのかもしれない。

(田中理事長)

ディスカッションが領域内にとどまっていることが多い。今の組織から森林総研内でプロジェクトを立

ち上げるといったこともできるのではないかと思う。

(今村監事)

研究領域間で共同して新たなプロジェクト課題を作るといった、違う分野の融合化によって新たな視点を見出すことも今の組織では必要である。それには、研究管理官がニーズに関連した領域をうまく結びつけていくことが必要だと思う。

(田中理事長)

本件についてはいろいろと意見があったが、監事からの監査報告を踏まえてこれからの将来構想についてしっかりと考えていきたい。

(2) 政策評価・独立行政法人評価委員会 独立行政法人評価分科会ワーキンググループヒヤリング概要 報告について

(田中理事長)

本件について、10月12日に総務省において研究普及課長、大臣官房文書課長、森林総研理事長のメンバーでヒヤリングを受けたので報告する。研究普及課長より組織体制、研究概要、研究成果、災害対応、国際貢献、試験地等の必要性、公務員の身分の維持などの説明を行った。非公務員化に重点を置いた議論となったが、森林の研究所として長期間を必要とする研究で、身分の安定性が不可欠であり、災害対応、環境問題、海外協力といった国民に直接関わる問題にも取り組んでいるという観点から説明を行った。今後、さらに説明を求められると思うが、しっかりと対応していきたい。なお、今後の予定として11月2日に6法人のヒヤリング、11月の中下旬に独立行政法人見直しに係る勧告の方向性の通知・公表が行われるようである。

(3) 役員給与規程第4条2項に係る平成16年度の取扱いについて

(周藤総務部長)

<資料2：役員給与規程第4条2項に係る平成16年度の取扱いについてにより説明>

(田中理事長)

説明のあったとおりで了承する。

(4) 平成16年度研究職員の昇格について

(周藤総務部長)

<資料3：平成16年度研究職員の昇格についてにより説明>

(田中理事長)

説明あったとおりで了解する。

(5) その他

・平成16年度森林総合研究所研究成果発表会について

(藤井企画科長)

<資料4：平成16年度森林総合研究所研究成果発表会についての報告により説明>

(田中理事長)

発表内容そのものは良かった。天候に恵まれなかったこともあるが、参加人数が少なかった。来年は100周年ということもあり、今後の教訓としたい。

(藤原理事)

仕事で来る方はウィークデーの開催でも問題はないが、学生や一般の方を考えると難しい面がある。昨年度は業界関係者が多かったことを考慮すると、今年度のようなテーマでは一般向けにアピールするといったことも必要である。

(田中理事長)

研究発表会について、報告のあったとおりで了解する。

・平成16年度の賃金改定について

(周藤総務部長)

10月27日に組合と基本的に合意し、人事院勧告どおりの内容で11月1日をもって賃金に関する協

約の改正を行うこととなった。内容としては、俸給と期末手当については現行どおり、寒冷地手当については支給地域の変更と減額というのが主な内容である。

(田中理事長)

報告のあったとおりで了解する。

- ・新潟県中越地震による十日町試験地の状況について

(周藤総務部長)

職員は全員無事とのことであるが、庁舎については十日町市全域に避難勧告が出されていることから、災害状況についてまだはっきりと確認は取れていない。内部の損傷がひどいとのことである。職員はそれぞれ自宅、車内等に待避の状態であるとのことである。対策本部としては十分現地での安全性を確認した上で、庁舎や研究フィールドの災害状況を確認するためのチームとその他応援チームを編成する準備を進めており、人選を行っている状況である。

(田中理事長)

報告のあったとおりで了解する。

- ・プレスリリースについて

(藤原理事)

11月1日は創立記念日であるが、99周年ということもあり、今までの検討を踏まえた100周年に向けた対外的なアナウンスを行う予定である。

(田中理事長)

報告のあったとおりで了解する。

次回の平成16年度第8回理事会は11月26日（金）を予定する。

3. 閉会